

## 西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年6月30日現在

### 今月の重点活動

#### ■新規就農者 県就農支援センター研修生修了式及び研修報告会が開催される

6月2日に、県就農支援センター第3期生の修了式が開催され、修了証書及び記念品授与の後、3名の研修生から決意表明が行われた。式には、地元選出の県議会議員をはじめとする来賓並びに関係機関職員も多数出席し、研修生の門出を祝して激励の言葉が贈られた。また、家族や先輩も多数出席し、アットホームな雰囲気となった。研修生からはトマトの贈呈があり、海津市内13のこども園にトマトが贈呈された。

6月9日には研修報告会があり、それぞれの研修生から研修で学んだことや今後の営農計画などが発表された。

農業普及課は、技術指導及び関係機関との連携により早期の営農定着と経営安定に向けた支援を行う。



【第3期生の修了式】

### 多様な担い手づくり

#### ■農業婦人クラブ 西南濃地区農業婦人クラブ研修会

6月20日、西南濃地区農業婦人クラブと農業女性起業グループを対象とした食品表示及び野菜栽培研修会が開催された。研修会では、保健所から加工食品における食品表示の新基準について、農業普及課から野菜栽培における連作障害について説明と指導を行った。会員らは平成32年から義務化される食品表示の基準や、野菜の栽培のポイントについて熱心に聞いていた。野菜栽培研修会は、婦人クラブの主要な研修の1つになっている。

### 売れるブランドづくり

#### ■水稲巨大胚芽米「はいごころ」の栽培実証

機能性成分米ビジネスモデル構築支援事業の実証ほを、今年度も引き続き養老町で設置した。昨年度に引き続き、巨大胚芽米「はいごころ」を栽培実証する予定で、5月29日に田植えが実施された（栽培面積20a）。今年は苗の出芽がやや悪かったため、密植栽培で対応することとした。

農業普及課は、当該事業実証ほ設置に当たり、生育・収量調査を行い、当該品種の安定生産に向けた栽培方法を検討していく予定である。



【田植えの様子】

## ■小麦**今年の収穫**

西濃管内の小麦は平成 29 年産より「農林 61 号」から「さとのそら」に切り替わった。5 月 24 日に実施された JA にしみの小麦現地検討会では、管内の小麦生産者が海津市のさとのそら実証ほ場を訪問し、生育状況を確認した。室内研修において農業普及課からは今年度の小麦の生育状況を報告するとともに、適期収穫を啓発した。さとのそらは冬期の低温等により莖数はやや少なめとなっている。

また、さとのそらの出穂は 4 月中旬となり、農業普及課は 5 月末から 6 月初めに各地で開催された適期収穫及び施設稼働会議で、出穂後の積算温度に基づいて 6 月上旬からの収穫予想を提示した。5 月下旬は高温傾向で登熟は進んだが、実際の収穫は 6 月上中旬となり、ほぼ予定通り進んだ。収穫時期は好天にも恵まれ、収穫は順調に進んだ。

一方、「イワイノダイチ」でも同様に収穫調整会議等が開催され、出穂期からの積算温度による収穫適期情報を説明した。天候にも恵まれ、こちらも収穫は 6 月上中旬にかけて行われた。

今後は水田フル活用に向け、大豆、そば、加工用キャベツ等の作付が予定されており、引き続き栽培支援を行っていく。



【小麦現地検討の様子】

## ■野菜**GAPの推進**

6 月 8 日に神戸町下宮青果部会協議会の会員を対象に G A P の説明会が開催され、約 50 人が出席した。県庁農産園芸課の担当者から、認証 G A P 制度、取得に係る手続き・手順などについての説明が行われた。認証 G A P に関心の高い生産者もいるので、今後詳細について検討していくこととなった。

6 月 6 日には養老町池辺いちご組合と養老西部いちご部会の合同栽培研究会が開催され、農業普及課から G A P に関する研修を実施するとともに、育苗に向けた栽培管理講習を行い、防除暦を配布して防除対策の徹底を図った。

また、6 月 20 日には海津市の土地利用型作物経営体が G A P アドバイザー派遣制度に基づく専門家（コンサルタント）の指導を受けた。

農業普及課は研修会等の場で G A P の普及啓発に向けた活動を継続する。

## ■甘長ピーマン**高温・少雨対策**

今年は春先からの気温が平年並みからやや低く、気温が高かった前年産と比較して出荷量が少なかったが、5 月に入ってから気温は高く推移し、収量は増加傾向にある。しかし、4 月下旬からの降雨は少なくほ場は乾燥傾向にあり、尻腐れ果、うどんこ病やハダニ、アブラムシ、アザミウマの発生が増加している。

農業普及課ではほ場巡回を強化し、注意喚起及び防除指導を行っている。露地栽培では病害の発生も増えており、6 月 19 日に JA と連携して現地研修会での指導を行った。

部会役員のほ場において行っている赤色ネット、天敵昆虫を用いた害虫防除の試験では、対象害虫の発生が抑えられており、効果が得られている。今後も定期的に調査を続けていく。

### ■えだまめ目揃会の開催

6月15日に牧園芸組合えだまめ部会の出荷目揃会が開催され、出荷規格、出荷方法の確認が行われた。

農業普及課からは少雨、害虫防除及び近年問題となっている病害ダイズシストセンチュウ、黒根腐病対策について指導を行った。

6月22日には海津えだまめ部会の出荷目揃会が開催され、西濃地域のえだまめの本格的な出荷が始まった。ハダニ等の病虫害防除対策と土壌水分管理の徹底により、収量確保と品質向上を推進する。

### ■ブロッコリーH29年作付に向けて

5月29日にブロッコリー安八部会総会及び反省会がJAにしみの名森支店において開催された。農業普及課から昨年のブロッコリーの生育状況、品種別の問題点について説明し、29年の品種組み立て及び効果的な病虫害防除等について提案した。また、今後も安定出荷に向けた新品種等の検討を行う。昨年度産は定植の遅れによる影響で出荷量が減少し、作付への不安材料となっているため、作付前にも研修会を行い、ほ場準備・品種構成について再度検討を行うこととした。

### ■さといも大垣さといも部会総会開催

5月25日にJAにしみのファーマーズテックにて大垣さといも部会総会が開催された。大垣さといも部会は、「大垣里丸」という独自ブランドとしてのさといもを生産し、市場出荷や直売所で販売を行っている。今年度からは新しく部会員が1名増え、総勢16名の部会となった。

総会では、大垣さといも部会会長含め部会員が9名参加した。その他、大垣市役所、岐阜中央青果、JA全農、JAにしみのが参加した。農業普及課からは、さといもの栽培技術と農作業安全に関する情報提供を行った。また所得増加に向け、市場出荷の割合を増加させてはどうかという提案をした。

### ■加工用トマト現地研修会

5月31日に輪之内町仁木コミュニティ防災センターにて、輪之内加工トマト協力会が行う現地研修会に出席し、栽培管理について情報交換した。研修会には生産者、名古屋市 of 契約業者、JAにしみの安八営農経済センター、西濃農林事務所農業普及課あわせて20人程が参加し、会長の進行で栽培研修会が実施された。

農業普及課及びJAにしみのが情報提供し意見交換した後、輪之内町のほ場と海津市平田町の2ヶ所のほ場で現地研修会を行った。4月から5月に定植し、7月上旬から8月中旬まで週3回出荷する。ヘタを付けずに収穫しコンテナ出荷する。

## 住みよい農村づくり

### ■神戸町 **バラづくりコンクール開催**

神戸町では、花いっぱい運動の一環として、町の花であるバラを町内の集落や公園及び公共施設場で栽培し、町を美しく、快適な環境づくりを推進するために、バラづくりコンクールが行われている。今年で28回目となるコンクールの現地審査が5月26日に行われ、15か所を巡回して審査した。最優秀賞に集落の部では「横井川瀬地内用水浴い」が、公共施設の部では「南平野小学校」が選ばれた。

農業普及課は、審査委員長として現地審査の実施を支援した。

### ■農村基盤整備 **「戦国ロード」が開通**

県は、昭和54年度から関ヶ原町玉と海津市海津町油壺を結ぶ道路のうち約31kmを県営広域農道として整備してきた。先般、第3期整備（約3km）の完成により全線開通したため、5月26日に関ヶ原町で開通式典が行われ、知事、県議会議員、関係市町長等が出席された。農業普及課も式典運営スタッフとして参加した。今回、整備された道路は「戦国ロード」と名付けられ、農業農村の発展効果が期待される他、水田での作業風景を間近に見ながら走行できる。